

VII. 今後の課題

1. 検証

提案されたコア・カリキュラム（試案）の有効性を検証するため、大学・教育委員会に協力を仰ぎ、初等・中等の教員養成・教員研修の一部で実証を行う必要がある。

その際、受講前後の受講者の意識の変容等を調査し、試案の課題や特長を明確化することが期待される。教員研修については、単発・長期、都道府県単位・学校単位等多様な実施方法があり、検証においても多様なケースで実施できることが望ましいと考える。そうした検証を通して、研修の内容だけでなく、運営方法についても建設的な提案ができる可能性がある。

2. 意見聴取

コア・カリキュラム（試案）について広く意見を聴取し、試案をより実効性の高いものに磨き上げる必要がある。

多くの意見が寄せられることが予測されるが、本事業が扱うのが「コア」部分であること、また、英語教育改革の中に位置付けられる事業であることを念頭において、最終版のコア・カリキュラムを作成することが肝要である。

3. 参観

特徴的な教員養成・教員研修を行っている大学・教育委員会を訪問して実際の授業や研修を参観したいと考えている。

実際に参観することで、文面での報告では見落とされがちな工夫や成果を客観的に観察できることが期待される。また、受講者に直接意見聴取を行うことで、より現実に根ざした情報が収集できると考える。

参観先の選定にあたっては事業の継続性・発展性に鑑み、今年度実施した調査や有識者からの推薦をもとに行う。

4. 周知

学会や勉強会など多くの機会をとらえ、コア・カリキュラム（試案）について報告・紹介する必要がある。

多くの関心を集めている事業でもあり、その内容について細やかに公表し理解を得ながら最終版のコア・カリキュラムを策定することは、コア・カリキュラムが多くの養成・研修の場で、実効性をもって使われるために特に肝要である。報告・紹介の機会は同時に参加者の意見を聴取できる貴重な機会でもあり、より充実したコア・カリキュラム策定のためにも有用であると考えられる。

また、英語教育改革に伴って新たに扱われる内容に関わる養成・研修については、その具体的なイメージを共有できるよう、映像や資料を提示する必要がある。

事業のウェブサイトを有効活用し、コア・カリキュラム（試案）に基づく実践の一部を公開する予定である。

5. 養成－採用－研修の一貫性

本年度は、教員養成・教員研修のコア・カリキュラム（試案）を提案したが、成長し続ける教員をはぐくむためには、採用についても視野に入れる必要がある。

韓国・台湾での聞き取りからも教員採用の在り方について示唆を得たが、そうした内容や国内の事例についても紹介し、教員採用についても議論が深まることが期待される。